HORIBA
Explore the future

第88期

中間報告書

2025年1月1日～2025年6月30日

株式会社堀場製作所

証券コード：6856





HORIBAのコア技術が新たな顧客との出会いと、ビジネスフィールドの拡大をもたらす「ほんまもん」の技術を世界中で芽吹かせる

代表取締役会長兼
グループCEO　堀場 厚

2025年、当社は創業80周年を迎えました。京都で誕生した当社は、ベンチャー企業として分析・計測技術を軸に、数々の革新的なソリューションを生み出してきました。

この長い歴史を振り返り、改めて認識するのは、ホリバリアン※一人ひとりがやりがいを持って「おもしろおかしく」仕事に取り組むこと、そして「ほんまもん」の技術を見極め、追求し続けることが、当社グループの神髄であり、成長の基盤であるということです。

2028年を最終年度とする中長期経営計画「MLMAP2028」は今年で2年目を迎えました。「MLMAP2028」では、5セグメント制から3フィールド制へと組織構造の大きな見直しに踏み切りました。この大きな転換により、組織間の連携がより強化され、これまで接点の少なかったお客様との新たな関係性が生まれ、社内においても各部門やグループ会社を越えたコミュニケーションが活性化し、グローバルな視点での取り組みが活発化しています。このように、特定のフィールドに対し、事業セグメントの枠を超えて対応する体制を築き上げたことは、当社にとって大きな成果です。現在の当社グループは、それぞれが持つ高度な技術を世界中のニーズに応用し、新たなビジネスを創出する動きを加速させながら、社会課題の解決にも積極的に貢献しています。

「MLMAP2028」では、水素関連市場や製薬をはじめとするバイオ市場、そして半導体分野における光を応用した計測領域の3分野を、次なる成長の中核と位置づけています。これらの分野において新たな技術や製品を数多く創出し、事業の柱として育て上げることが喫緊の課題です。その過程において、次世代のコア事業として期待される水素関連事業への積極的な投資や、競争の激化が続くメディカル事業においては、早急な課題解決も求められています。

また、当社グループに対する株式市場からの期待も日々変化しています。当社が大切にしてきたフィロソフィーを保持しつつ、ステークホルダーの皆様の期待を正確に把握し、相互理解を深めていくことが、今後の市場競争力の源泉であると考えています。

2025年度中間期における当社グループの業績は、以下のとおり堅調に推移しました。売上高は1,489億円（前年同期比4.4%増）、営業利益は218億円（同17.6%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は158億円（同20.6%増）となり、前年同期比で増収増益を達成しました。

「エネルギー・環境」フィールドでは、EVシフトが緩やかになったことにより、ハイブリッド車開発向けに排ガス計測システムなどのモビリティ関連事業の販売が増加しました。「先端材料・半導体」フィールドでは、生成AIなどの先端半導体需要が牽引し、主にアジアにおいて半導体製造装置メーカー向けの販売が増加しました。一方、「バイオ・ヘルスケア」フィールドでは、米州とアジアにおいて検体検査装置の販売が減少しました。

利益面では、排ガス計測システムの販売増や、水素を中心としたエネルギー関連事業における収益性の改善、そして半導体製造装置向けビジネスの拡大が寄与し、全体として増益を実現しました。これにより1株当たりの中間配当金につきましては、80円といたしました。

これら中間期までの進捗等に鑑み、2025年8月7日に公表した最新の業績予想では、売上高3,350億円、営業利益520億円、親会社株主に帰属する当期純利益360億円とし、2025年5月に修正発表した予想を全社ベースで据え置きました。1株当たりの年間配当金の予想は290円（中間80円・期末210円）と、当初予想を据え置きました。

オーナー（株主）の皆様におかれましては、倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

※ホリバリアン：当社グループで働くすべての人を同じファミリーであると考え、ホリバリアンと呼んでいます。

Our Future

Vision

Joy and Fun for All
おもしろおかしくをあらゆる生命へ

Our Futureの実現に向けてHORIBAが注力する3つのフィールド
エネルギー・環境　　バイオ・ヘルスケア　　先端材料・半導体

Mission

ほんまもんと多様性を礎にソリューションで未来をつくる

Values

チャレンジ精神　　誠実と信頼　　卓越の追求

社是 おもしろおかしく



あらゆる生命が「おもしろおかしく」輝く未来

HORIBAが社会や環境へ貢献するソリューションを提供し、豊かないのちや暮らしにつながっている

好奇心や情熱を追求し、「おもしろおかしく」仕事に取り組むホリバリアン

3
2
1

リーダーメッセージ



Our Future Project
プロジェクトリーダー　堀場 弾
当社取締役
堀場エステック代表取締役社長

当社は創立70年を迎えた2023年に、創立100周年である30年後（2053年）の未来に向けての羅針盤となる「Our Future（Vision, Mission, Values）」を発表しました。

そこから1年以上遡る2021年には、事業環境や働く事への価値観が大きく変化している中で、長期的に当社グループで働く意義を明示する期待を若手からも聞き、「Our Future Project」を立ち上げました。

当社グループがどのような会社でありたいか、ホリバリアンはどのような人財※であるべきか等を、国内外のメンバーと広く意見を交わし、議論を重ねました。こうして生まれた「Our Future」は、「Joy and Fun for All」のビジョンを掲げ、当社グループの技術や事業を通じて、地球環境やあらゆる生命に対して貢献し、より良い世界を創り上げていくための新たな道標となりました。

オーナー（株主）の皆様と共に、この道標に沿って歩みを進めていきたいと考えています。

※人財：当社グループでは、従業員を大切な財産と考えて「人財」と表現しています。

TOPICS

韓国のEtaMax社を買収
～次世代パワー半導体向けウェハ検査装置市場の事業拡大へ～

先端材料・半導体

2025年4月に、当社グループで韓国の半導体事業を担う堀場エステック・コリア社（本社：韓国龍仁市）は、半導体市場向けウェハ検査装置を開発・製造・販売するEtaMax（エタマックス）社を買収しました。

当社グループが長年培ってきた分光技術と、EtaMax社が保有する化合物半導体結晶欠陥検査の豊富な知見やソフトウェア技術を融合し、ウェハ検査装置のラインアップの拡充とソリューション提案力の強化をめざします。これにより、化合物半導体デバイスの歩留まり改善や品質管理の高度化に貢献します。



（左から）EtaMax社 CEO Jung Hyundon氏、
堀場エステック 代表取締役社長 堀場 弾



EtaMax社
（本社：韓国水原市）

遺伝子治療薬の生産性を向上させる遺伝子導入装置を富士フイルムと共同開発

バイオ・ヘルスケア

富士フイルム株式会社と当社は、遺伝子治療薬の生産性を向上させる遺伝子導入装置を共同で開発しました。富士フイルムは、遺伝子治療薬の製造プロセスにおいて細胞に遺伝子を導入する効率を高め、遺伝子治療薬の生産性を従来比約100倍※1に向上させる業界初※2の連続エレクトロポレーション技術※3を確立。当社が本技術の実装を担い、2026年以降の装置発売をめざします。

遺伝子治療薬とは、病気の原因となる遺伝子の問題を修正するために、外部から遺伝子を体内に入れて治療するバイオ医薬品です。これまでに有効な治療法が確立されていない難病等を治療し得る技術として世界的に大きな期待が寄せられています。

市場投入後は、当社のグローバルネットワークを通じて、遺伝子治療薬の需要が特に高い欧米を中心に販売を推進します。



連続エレクトロポレーション装置

※1 富士フイルム調べ。従来法 PEI試薬による化学導入と比較して（2025年8月時点）
※2 富士フイルム調べ。
※3 連続エレクトロポレーション技術：制御された電圧により、細胞の膜にごく小さな穴をあけ、遺伝子を直接注入する技術。

IRLAM技術が米国環境保護庁（EPA）の認証を取得

エネルギー・環境

当社グループが独自に開発した赤外線ガス分析技術「IRLAM（アーラム）」が、米国環境保護庁（EPA）の認証を取得しました。これは、IRLAM技術が米国環境保護庁の基準を満たしていることの証であり、米国市場への参入促進やグローバルな市場競争力の強化に寄与するほか、ブランド価値向上にも資するものです。

他にも電子部品産業における工場排ガスのモニターに採用される等、製品のラインアップ拡大や環境負荷低減、測定対象ガス拡充等に努めてまいります。

IRLAM搭載製品



可搬型排ガス計測システム
MEXAcube

IRLAM by HORIBA



レーザー吸光法
自動車排ガス測定装置
MEXA-ONE IRLAM



プロセス用
レーザーガス分析計
PLGA-1000

創業者 堀場雅夫 生誕100周年を迎えて

2024年12月1日に当社の創業者・故堀場雅夫の生誕100周年を迎えました。当社グループの社是「おもしろおかしく」には、「人生の最も活動的な時期を費やす仕事にプライドとチャレンジ・マインドを持ち、エキサイティングに取り組むことによって人生の満足度を高め、よりおもしろおかしく過ごしてほしい」という創業者のおもいが込められています。

堀場雅夫の生誕100周年にあたり、改めて創業者のおもいを胸に刻み、世界で働くホリバリアン一人ひとりが思い描く「おもしろおかしく」を体現し、あらゆる生命が豊かに生きられる世界をめざします。


堀場 雅夫
（1924－2015年）

HORIBAが注力する3つのフィールド

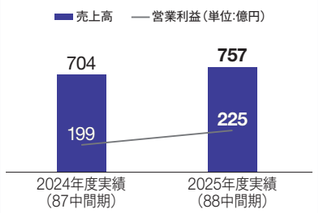
「MLMAP2028」において設定した３つの注力フィールドの推進体制を整備すべく、社内体制を見直しました。これに伴い、2025年12月期より、報告セグメントを従来の「自動車」「環境・プロセス」「医用」「半導体」「科学」から「エネルギー・環境」「バイオ・ヘルスケア」「先端材料・半導体」の３フィールドに変更しています。従来の５セグメントと新たな３フィールドとの関連性は下図のとおりです。

HORIBAが注力する3つのフィールドと５つのセグメント体制の対応表

	エネルギー・環境	バイオ・ヘルスケア	先端材料・半導体
新 HORIBAが注力する3つのフィールド			
旧 5つのセグメント体制	自動車 環境 プロセス 科学	医用	半導体

先端材料・半導体

〔売上高 757 億円〕



生成AI等の先端半導体関連需要が牽引し、主にアジアにおいて半導体製造装置メーカー向けの販売が増加したこと等から、売上高は757億円と前年同期比7.5％の増収、営業利益は225億円と同12.9%の増益となりました。

ビジョン

持続可能な社会実現に向けて、先端材料・半導体分野への革新的なソリューションで市場を形成する

重点事業領域

半導体製造プロセス、関連先端材料、ファシリティが互いに関係するバリューチェーンマトリックス「ウーブンバリューチェーン※」における技術革新に貢献。
最先端の分析・計測ソリューションを全方位に提供し、お客様のオペレーションをサポート。



当社グループは、半導体製造プロセスにおける制御とモニタリングを中心として、上流側に広がる先端材料の研究開発の最先端ソリューションの提供から、下流側に広がる排ガスや廃液監視等のファシリティの管理に至るまで、全方位でお客様のオペレーションをサポートします。「ウーブンバリューチェーン」の全方位にわたり最先端のソリューションを提供することで、持続的な発展を続ける社会実現に貢献します。

※ ウーブンバリューチェーン：「ウーブン」とは、「織物」をイメージしています。
当社グループでは、半導体製造プロセスを横糸、その工程ごとに存在する関連材料市場を縦糸とし、ファシリティも含めて複合化したバリューチェーン全体を織物に例えて「ウーブンバリューチェーン」と表現しています。

■ 先端材料

New！
2025年1月発売


ラマン分光
分析装置


微小部
X線分析装置


レーザー回折・動的画像式
粒子径・形状解析装置
Partica

■ 半導体

New！
2025年1月発売

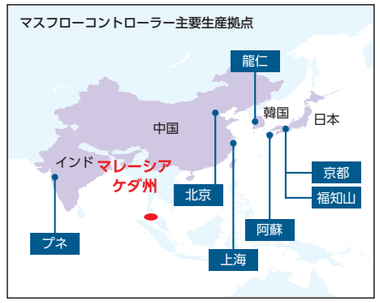

薬液モニタリングシステム


全自動薄膜検査装置


超薄型マスフローコントローラー
DZ-107

グローバルな供給体制のさらなる強化をめざす
～マレーシアで生産拠点新設へ～

当社グループでマレーシアの半導体事業等を担うホリバ・マレーシア社は、ペナン州にある現拠点からケダ州に拠点を移転し、新たに生産機能を有した新拠点を、2026年1月より稼働予定です。マレーシアは半導体産業の集積地として発展し、高度な技術人材と安定したビジネス環境を有しています。拠点の新設に伴い、マレーシアでは初めてとなるマスフローコントローラーの生産を開始するほか、一部製品の修理やメンテナンス等のサービスも行い、グローバルでの供給体制を強化します。

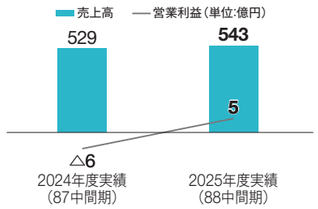


ホリバ・マレーシア社
最先端ラボ「Analytical Solution Plaza(アナリティカル ソリューション プラザ) in Malaysia」を設け、先端材料の分析や半導体製造プロセスモニタリング、工場における排ガス・廃液の計測といった多様なニーズに対して、幅広いソリューションを提供します。


新拠点の完成イメージ

エネルギー・環境

〔売上高 543 億円〕



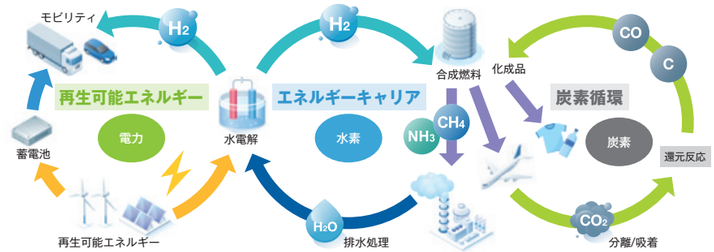
米州と欧州において、EVシフトが緩やかになったことにより、ハイブリッド車開発向けに排ガス計測システム等の自動車関連事業の販売が増加したことから、売上高は543億円と前年同期比2.6％の増収、営業利益は5億円となりました（前年同期は6億円の営業損失）。

ビジョン

持続可能な地球環境を実現するために、お客様の課題を解決し、信頼される真のパートナーとなる

重点事業領域

カーボンニュートラル実現に貢献。研究開発・法規認証等のプロセスに対して、当社グループが培ってきた技術と経験を統合し、お客様のニーズに合わせた最適なソリューションを展開。



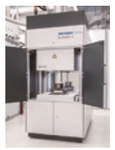
上記の「カーボンニュートラルを実現するエネルギー変換サイクル」図は、カーボンニュートラルなエネルギー源の利活用、エネルギーキャリアとしての水素の活用、回収した二酸化炭素と水素による合成燃料生成、化成品の原材料としての二酸化炭素の活用等を通したエネルギーの循環を表しています。電気や水素を活用して二酸化炭素を増やさずに循環させる、この循環を保つために当社グループの「はかる」ソリューションの活躍が期待されています。エネルギー・環境フィールドでは、エネルギー、モビリティ、産業プロセス・環境といった注力市場における、研究開発、法規認証、使用過程認証、生産ラインといったそれぞれのバリューチェーンに対して、最適なソリューションを提供します。

■ モビリティ


車両の走行状態と同じ過渡的な温度変化や流量変化を再現する熱エミュレーター


可搬型排ガス計測システム

■ エネルギー


水電解評価装置

New！
2025年2月発売


CCM／MEA触媒塗布モニター
XV-100

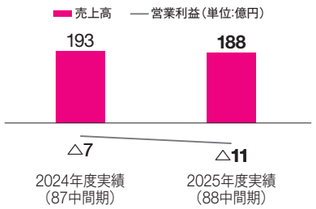
■ 産業プロセス・環境


煙道排ガス分析装置


自動水道水質測定装置

バイオ・ヘルスケア

〔売上高 188 億円〕



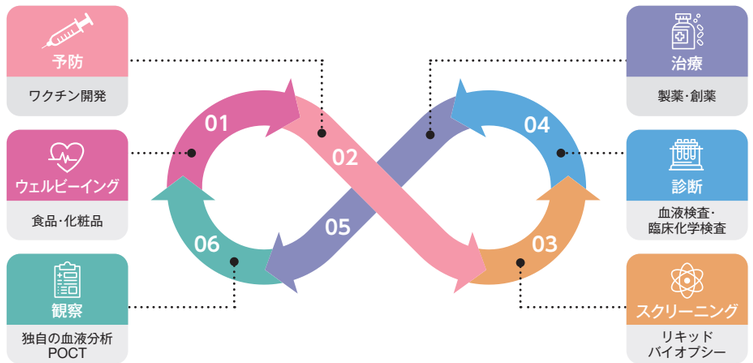
米州とアジアにおいて、検体検査装置の販売が減少したこと等から、売上高は188億円と前年同期比2.5％の減収となりました。利益面では、販売減並びにライフサイエンス事業における研究開発投資を増加させたことから、11億円の営業損失となりました（前年同期は7億円の営業損失）。

ビジョン

ユニークなソリューションで、あらゆる生命のヘルスケアジャーニーを変革し、社会価値を創造する

重点事業領域

ヘルスケアジャーニーの変革に貢献。検体検査ビジネスでのノウハウ、多様なコア技術、グローバルネットワークを活用し、ユニークなソリューションを提供。
POCT※を用いた臨床現場の課題解決や、バイオ医薬品の開発・生産プロセスの最適化等に貢献。



※ POCT（Point of Care Testing）：診察室等「患者に近い場所」で行われる検査の総称。

バイオ・ヘルスケアフィールドで解決をめざす社会課題は、あらゆる生命が健康でいるために、ウェルビーイングや予防を含めたヘルスケアジャーニーの変革です。当社グループが血球計数装置ビジネスで培ってきた多様なコア技術とグローバルネットワークを活用し、血液検査、生化学用検査、動物医療、デジタルソリューション、POCT等の分野で、高付加価値でユニークなソリューションを提供します。また、製薬、化粧品、食品・飲料市場において、事業拡大を狙います。特に、製薬市場の開発・生産プロセスにおいて、開発期間の短縮や生産の効率化を実現し、より効率的な医療の実現に貢献します。

国際展示会「Pittcon」で医薬品メーカーと当社グループのソリューションを紹介

2025年3月、ボストンで開催された分析機器の国際展示会「Pittcon」に出展しました。当社グループの高性能なラマン及び蛍光分析技術を活用した医薬品開発や品質管理に役立つソリューションを、実際のお客様（Sanofi社（仏）、Bristol Myers Squibb社（米））の使用例とともにご紹介しました。



展示会の様子

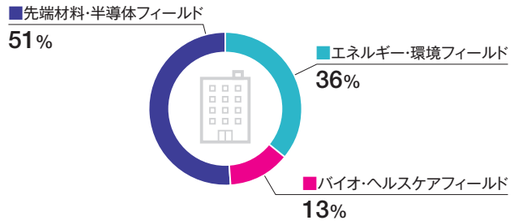




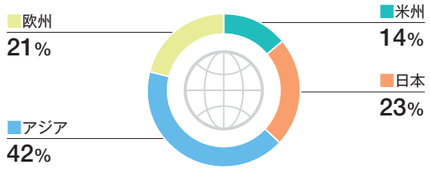
蛍光分光迅速バイオ分析装置
Veloci


ハイスループット
ラマンプレートリーダー
PolySpectra RPR

フィールド別売上高構成比



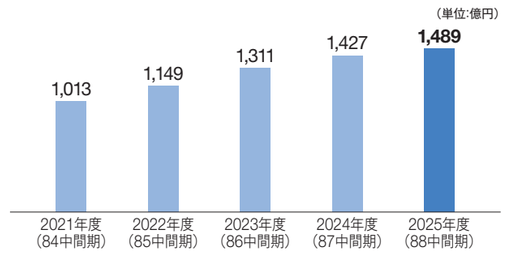
地域別売上高構成比



中間業績ハイライト

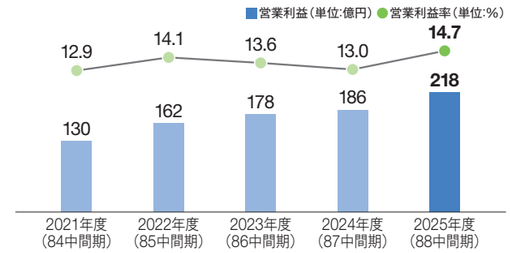
売上高

1,489億円（前年同期比4.4％増）



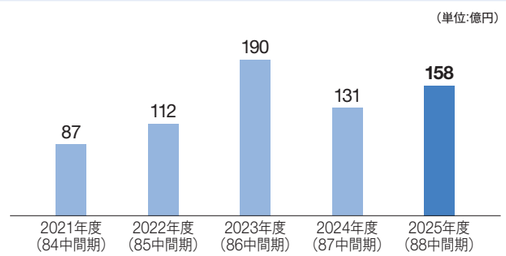
営業利益

218億円（前年同期比17.6％増）



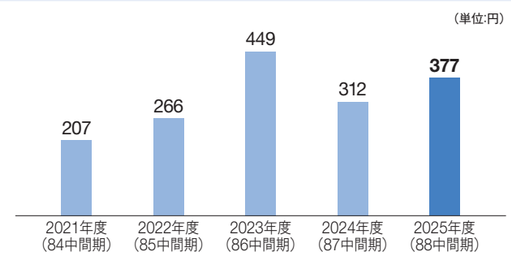
親会社株主に帰属する中間純利益

158億円（前年同期比20.6％増）



1株当たり中間純利益

377円（前年同期比21.0％増）



中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：億円）

科　目	2021年度（84中間期）	2022年度（85中間期）	2023年度（86中間期）	2024年度（87中間期）	2025年度（88中間期）
営業活動によるキャッシュ・フロー	158	102	36	99	298
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 69	△ 30	△ 12	△ 43	△ 76
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 31	△ 69	△ 185	△ 97	△ 88
現金及び現金同等物に係る換算差額	20	50	44	78	△ 53
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,219	1,392	1,270	1,342	1,519

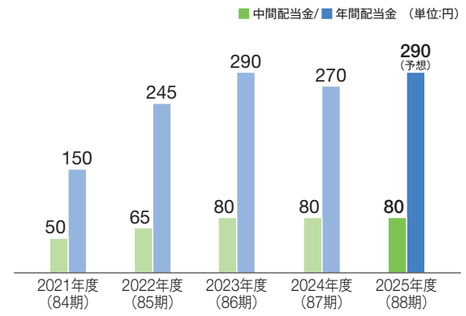
オーナーの皆様への利益配分について

当社では、株主の皆様への利益配分につきまして、配当性向を、連結純利益の30％を目途としつつ、投資機会と資金状況等を総合的に勘案し、特別配当や自己株式の取得を機動的に実施することを基本方針としています。

こうした方針のもと、8月7日時点、2025年度通期の配当予想を1株当たり290円としており、このうち、2025年度中間配当金としましては、1株当たり80 円といたしました。

1株当たり中間配当金

80円（前年同期と同額）



OSAKA, KANSAI, JAPAN EXPO2025

©Expo 2025

HORIBAは、シグネチャーパビリオン「いのちの未来」にブロンズパートナーとして協賛しています。

地球上のあらゆる「いのち」を拡げる、豊かな未来社会の創造に「はかる」技術がどのように貢献しているかを、来場者の皆様に感じてもらいたいと考えています。
テーマ事業プロデューサーである石黒浩氏のユニークな発想と、HORIBAが提案する未来の「はかる」ソリューションが交わり、50年後の未来に大きく貢献する姿を、ぜひ万博会場で感じてください。



「HORIBA 万博特設サイト～はかるのみらい～」:
https://www.horiba.com/jpn/expo2025/

HORIBA そらよみノート Sorayomi Note
あなたと空の素敵な出会いを記録する体験

青空をはかるアプリ、そらよみノートも体験してください！

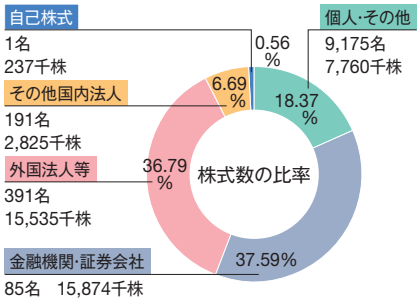
「そらよみノート」特設サイト:
https://www.horiba.com/jpn/company/about-horiba/horiba-talk/sorayomi/

株式の状況

株式の状況 (2025年6月30日現在)

発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式の総数	42,233,252株
株主数	9,843名

株主構成



大株主一覧 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,122	12.20
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,152	7.51
全国共済農業協同組合連合会	1,682	4.01
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	1,138	2.71
堀場　厚	1,096	2.61
STICHTING PENSIOENFONDS ZORG EN WELZIJN	1,033	2.46
堀場洛楽会投資部会	846	2.01
株式会社京都銀行	828	1.97
京都中央信用金庫	720	1.71
堀場グループ従業員持株会	714	1.70

(注)持株比率は自己株式(237,156株)を控除して計算しております。

表紙写真



撮影者：松井 秀雄

オーナーメモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日 定時株主総会期末配当	毎年12月31日
中間配当	毎年6月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
(電話照会先)	Tel:0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間:9:00～17:00(土日休日を除く)
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	6856
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ(https://www.horiba.com/jpn/)に掲載いたします。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

▶住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設された方は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

▶未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

https://www.horiba.com/jpn/company/investor-relations/ir-library/horiba-report/

統合報告書「HORIBA Report 2024-2025」を発行しています。
当社ホームページでPDF版をご覧いただけます。
HORIBA Report　検索

株式会社堀場製作所
京都市南区吉祥院宮の東町 2 番地
〒601-8510 Tel:(075)313-8121　https://www.horiba.com/jpn/

この印刷物は、環境に配慮し植物油インキを使用しています。
VEGETABLE OIL INK